

科目名 (英)	ラッピングコーディネイト ( Wrapping Design)	必修 選択	必修	年次	2		
学科・コース	製菓本科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
【授業の学習内容】 ギフト需要のある商品を提供する側に於いてお客様のニーズに合わせた包装に精通するのは必要不可欠である。しきたりを理解すると共に箱を包む方法、のし紙の扱いやリボンの掛け方等、実務上即必要になる技術を習得する。資材選定やディスプレイにも役立つ発想力を養い表現できるようになる							
【到達目標】 日本におけるしきたりを理解し、慶弔をふまえた基本の包装(合わせ包み、斜め包み、ふろしき包み)が提案できる。主要なリボン掛けとちょう結びができる。柔軟な発想と材料で商品に彩りを加え、提供することができる。							

授業計画・内容	
1回目	包装の必要性、付加価値について理解し、説明できるようになる
2回目	合わせ包みができる。横一文字掛けリボン、基本のちょう結びができる。
3回目	厚みのある箱の合わせ包みができる。縦一文字掛けリボンができる。
4回目	斜め包みの手順を理解する。斜め掛けリボンができる。
5回目	斜め包みと半回転包みの違いを理解し、半回転包みができる。十文掛けリボンができる。
6回目	ふろしき包みができる。すべて表を出すちょう結びができる。
7回目	贈答のしきたりを理解し、適したのし紙が選べるようになる。慶弔包み分けることができる。
8回目	ソフトペーパーの特性を活かして包み、リボンの組み合わせアレンジができる。
9回目	リバーシブルペーパーの特性を活かして包み、方向性のあるリボンを正しく結ぶことができる。
10回目	4種の紙袋を作れるようになり、その特性を理解する。口の閉じ方アレンジができる。
11回目	副資材を活かしたラッピング方法を考案できる。
12回目	商品に適した個包装技術を習得し、適した材料を選べるようになる。
13回目	自由な発想で材料を選び包装し、ディスプレイできるようになる。
14回目	定期テスト内容を復習し、不明瞭な箇所を明確にし、指導できるようになる。
15回目	復習、まとめ
準備学習 時間外学習	前半7回目までに習得する包みとリボン掛けは、手順を理解した後には箱のサイズや材料の質感を変えて復習が必要。店頭で既にラッピングされた商品を見ることで、包装方法や材料の多様性を見出すアンテナが必要。
評価方法	試験点100点満点で評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 □	